

令和6年度 日野市立第二幼稚園経営重点計画				自己評価シート				令和7年3月公表					
★幼稚園教育目標				人権尊重の精神を基盤に、すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力の基礎を育み、人間性豊かな幼児の育成を目指す。○よく遊ぶ元気な子 ○じっくり考え行動する子 ○豊かに感じて表現する子				★重点計画の概要					
★目指す幼稚園像（ビジョン）								令和6年度より、第3次日野市学校教育基本構想に基づいた第4次日野市学校教育基本構想の実施となった。すべてのいのちがよろこびあふれる今と未来を創っていく力の基礎を育めるように、幼児期に育ってほしい知識・技能、思考力・判断力・表現力、を踏まえながら、「命の大切さを伝える教育」「人権を尊重し、一人一人の個性と特性が生きる教育」「道徳性規範意識の芽生えを育む教育」「豊かな感性を育むための、遊びの充実を目指した教育」を推進する。また、地域の人材活用や保護者の保育への協力、コーディネーショントレーニングによる健康な体づくりの継続など、より豊かな教育活動を展開し、地域と共にある幼稚園としての役割を意識した教育、子育て支援を行っていく。					
【目指す園児像】		◆[よく遊ぶ元気な子]：＊わくわくどきどきの感情をもち、自分のやりたいことを見つけながら、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ子ども ＊目標に向かって一生懸命に取り組む子ども ＊すべてのいのちを大事に思い、自分の体を大切にし、基本的生活習慣を身に付けて生活する子ども ◆[じっくり考え行動する子]：＊見て触れて、感じたり試したりながら、考えることを楽しむ子ども ＊いいこといけないことを考え、判断し行動しようとする子ども ◆「豊かに感じて表現する子」＊思ったこと感じたことを言葉や行動で素直に表現する子ども ＊イメージの世界を広げ実現することを楽しむ子ども ＊想像したり創造したりすることを楽しむ子ども ＊相手の気持ちを汲みながら、人や小動物に優しくしようとする子ども											
【目指す幼稚園像】		◆笑顔と優しさがあふれる幼稚園 ◆子どものことを第一に考えながら幼児教育を進める幼稚園 ◆保護者や地域の方と共に子どもを育てる幼稚園											
【目指す教師像】		◆いのちを預かる責任をもち、一人一人の子どもに寄り添い、個々の発達に応じて適切に関わる教師 ◆子どもがわくわくどきどきしながら遊びたくなる活動を創造し子どもとともに作り上げる教師											
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準								保護者アンケートより	結果の分析と改善策
				評価点		取組指標		評価点		成果指標			
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	生きる力の基礎となる知識や技能を活用するために思考力・判断力・表現力を高める。	自分たちの生活がより豊かになるように、考えたり工夫したり挑戦したりなどの経験を繰り返しながら、興味・関心をもち進んで活動に取り組む。	子供が課題や目的や自分の役割を意識し、仲間と協力して取り組む活動を繰り返し行う。	2	4	子供が課題や目的を理解し自分の役割を意識しながら活動に取り始めるような指導を計画的に行うことが90%できた。	2	4	自分の課題や目的を理解し自分の役割を意識して進んで活動に取り組んだ子供が90%いた。	子どもが進んで活動に取り組んだと答えた保護者がおよそ6割、普通に取り組んでいると答えた保護者を合わせると9割だった。中には自分の役割を意識した活動への取組以前の問題で、我が子は園が安定の場所になるよう頑張っている段階であると答えた保護者がいた。まだ子ども自身あまり分かっていないという保護者もいた	・4歳は、やってきたことが欠席や遅刻によって途切れている。活動が継続して経験できなかったことや、個々が単独で生活していた感じだったためねらい達成に至らなかった。家庭の協力が大きいのでねらいを明確に伝えていく。 ・5歳はこっこ遊びの経験から、他園と活動するにあたり、子どもに経験してほしいことが教師主導型で進める形になってしまったことが反省。 相手の希望を聞きつつ進める中で、指導にもう少し踏み込んだ話をしていくと改善されるところがあると考える。 ・年長としての活動への取り組み方の意図が十分に伝わっていないところがあった。個々に応じた伝え方の工夫が必要と考える。		
					3	子供が課題や目的を理解し自分の役割を意識しながら活動に取り始めるような指導を計画的に行うことが80%できた。		3	自分の課題や目的を理解し自分の役割を意識して進んで活動に取り組んだ子供が80%いた。				
			2		子供が課題や目的を理解し自分の役割を意識しながら活動に取り始めるような指導を計画的に行うことが70%できた。	2		自分の課題や目的を理解し自分の役割を意識して進んで活動に取り組んだ子供が70%いた。					
			1		子供が課題や目的を理解し自分の役割を意識しながら活動に取り始めるような指導を計画的に行うことが70%未満しかなかった。	1		自分の課題や目的を理解し自分の役割を意識して進んで活動に取り組んだ子供が70%未満だった。					
	“いのち”を大切にしようとする意識を高める。	“いのち”や環境を守るために自分にできることを知り、必要な行動を実行・継続する。	小動物・植物の世話を通して、命をつなぐ体験を行う。 野菜くずを生かした土づくりを通じてSDGsに関わる活動を行う。	3	4	“いのち”や環境に関わる活動計画を90%以上実施することができた。	2	4	意味を理解し、進んで活動に参加したり行動しようとしたりした子供が80%いた。	保護者の評価は高く、100%だった 生き物や栽培物への興味が家庭での姿にも表れているということだった	・畑の水やりに自ら気づけない子供が多く、合わせて担任として働きかけも不十分だった。生き物の世話については、嫌な仕事もしようとする気持ちは育ってきた。 ・4歳は意識して行える子と人の姿を見て真似て行う子とがいた。みんなそれぞれが意識してということが難しかった。また、活動が欠席によって継続できなかった。みんなが経験できるようにするためには、ノルマにしないと難しいと考える。		
			3		“いのち”や環境に関わる活動計画を80%以上実施することができた。	3		意味を理解し、進んで活動に参加したり行動しようとしたりした子供が70%いた。					
			2		“いのち”や環境に関わる活動計画を70%以上実施することができた。	2		意味を理解し、進んで活動に参加したり行動しようとしたりした子供が60%いた。					
			1		“いのち”や環境に関わる活動計画を70%未満しか実施できなかった。	1		意味を理解し、進んで活動に参加したり行動しようとしたりした子供が60%未満だった。					
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	一人一人のニーズに応じた教育環境の充実を図る。	子供たち一人一人が個性を発揮する喜びや、友達と一緒に生活する喜びを感じる。	子供の発達の特性や個性など、実態の把握に努めるとともに、言動や内面、心の動きについて、全職員で意見交換・情報交換を行うことで幼児理解を深め、指導体制を充実させる。	3	4	職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に4回以上行った。	3	4	自分の力を発揮し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりした子供が80%いた。	保護者の評価は91%と高く、友達との関係も良好であると考えている	・職員間での指導に関する連携は、必要に応じてその都度細かく伝え合いながら進めてきたので、一貫して子どもたちに関わることができた。 ・4歳は自分を少しずつ表現できるようになりつつある中、横のつながりができていくように、さらに安定して過ごせる集団としてのクラスづくりを心掛けた。 ・一人一人の良さをクラスで伝えても反応が少ない場合があったり、反対に他の子のことを自分のことのように喜んだりと、関心があるのかないかの安定しない関係のところがあるので、教師としてさらに個々の良さをクラスの中で伝えていく関わりを大切にしたい。		
					3	職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に3回行った。		3	自分の力を発揮し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりした子供が70%いた。				
					2	職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に2回行った。		2	自分の力を発揮し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりした子供が60%いた。				
					1	職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に1回行った。		1	自分の力を発揮し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりした子供が60%未満だった。				
社会と未来に開き、みんなでつくる	地域の方や保護者を活用した体験の場を通して、多様な立場の人の存在を知り、関わり方を学ぶ。	地域の方や保護者の協力を得た多様な体験の中で、喜びや感謝の気持ちを通して、多様な人との関わり方を知る。	子供が喜びや感謝の気持ちをもち、進んで取り組むことができるような活動を、地域の方や保護者と協働して計画する。	4	4	子供が喜びや感謝の気持ちを表現しながら進んで取り組みたくなる活動を計画通りに行った。	3	4	地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表現した子供が80%いた。	80%の子どもが喜びや感謝を表現しているということで、子どもによっては家庭での会話の中に聞かれることもあったとのことだった 反面まだそこまで視野が広がってないという保護者もいた	・楽しむ、喜ぶなどの表現はとても良いが、表現の方法が適切でない場合があった。また、最後まで相手に対する気持ちを継続して表すということができにくい子の姿が気になった。相手に感謝の気持ちを表すときの態度についてもっと丁寧に指導する必要がある幼児もいた。		
					3	子供が喜びや感謝の気持ちを表現しながら進んで取り組みたくなる活動を計画の90%行った。		3	地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表現した子供が70%いた。				
					2	子供が喜びや感謝の気持ちを表現しながら進んで取り組みたくなる活動を計画の80%行った。		2	地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表現した子供が60%いた。				
					1	子供が喜びや感謝の気持ちを表現しながら進んで取り組みたくなる活動が計画の80%未満の実施だった。		1	地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表現した子供が60%未満だった。				
				3	4	他の教育機関や未就園児などとの交流活動を計画通りに行った。	3	4	交流の中で主体的に活動に参加し、人と関わろうとしている幼児が90%いた。	70%の保護者は、交流について良い機会であったと評価していた。 家庭での話題の中や、実際の保育の中で友達の名前が出てきたり実際に声をかけて関わったりする姿があったとのことだった。	・他園と合同活動するときに取り掛かりがつい遅くなってしまうことで十分な意図の伝え合いができていないこともあった。 ・複数園との交流を行ってきた中で、大きな活動と一緒に向かう前に、段階を追った交流を意図的に行って関わり合いやすくする指導の工夫が必要だった。 ・4歳は物的環境を整えてそれを媒介に関わりやすくしていくのが有効ではないか。		
					3	他の教育機関や未就園児などとの交流活動を計画の90%行った。		3	交流の中で主体的に活動に参加し、人と関わろうとしている幼児が80%いた。				
					2	他の教育機関や未就園児などとの交流活動を計画の80%行った。		2	交流の中で主体的に活動に参加し、人と関わろうとしている幼児が70%いた。				
					1	他の教育機関や未就園児などとの交流活動が計画の80%未満の実施だった。		1	交流の中で主体的に活動に参加し、人と関わろうとしている幼児が70%未満だった。				

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。